

The Earth



Editor's Note

弊社の広報誌は発刊より今回で4回を数え、多くの皆様にご覧頂き深謝申し上げますとともにスタッフ一同ますます張り切っております。毎回広報誌に掲載する特集を何にするか、表紙や色彩はどうか、さまざまな提案意見が出され、バージョンアップへの追求はとどまる事ありません。読者の皆様楽しんで頂くことがスタッフにとって新たな励みや喜びになりますし、逆に鋭い指摘を受けることが今後の課題にもなります。広報誌作成に携わることは“問題に対する取り組み方”“さらに良い物への向上心”など体得するものは多くあります。一度走り出したら止まらない、止まれない、止まりたくない! 広報誌スタッフの熱意は北風を熱風に変え加速しております。

年末は何かとせわしなく締めだ決算だと落ち着きませんが、1999年皆様にとってどのような1年でしたでしょうか? 一千年代と二千年代を跨ぐ私たちは選ばれしこの時代に生きており、このような瞬間を共存できるとはなんと貴重な事でしょう。今世紀最後の2000年、この世は何が起こるかわかりません。いろんな事に遭遇しても強く賢く生きていく糧を見つけましょう。

今年は多くのお客様及び関係者の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。来年もより一層精進できるよう、広報誌スタッフ一同努力する次第でございます。皆様のご健康を心よりお祈りして簡単ではありますが挨拶とさせていただきます。(杉山)

〈CONTENTS〉

ISO9001 認証取得の効果と運用	P1
遺跡発掘の「今」埋文調査室編	P3
最近聴いたっておきの話 「日本のメガトレンド」	P5
CNK NEWS	P5
ジュエリーストーリー ひすい	P6
今月の虫眼鏡 ~社名~	P6

VoL.4

ISO
ISO9001 認証取得

株式会社 中部日本鋳業研究所

本 社 〒933-0927 高岡市利屋町 9
TEL(0766)22-0602(代)
技術センター 〒933-0824 高岡市西藤平蔵 581
TEL(0766)63-8850(代)
富山事務所 〒930-0004 富山市桜橋通り 1-18
(住友生命富山ビル 3F)
TEL(076)443-3535(代)

ご意見・ご感想はこちら
<http://www.ntt-net.ne.jp/cnk/>

ジュエリーストーリー④ ひすい

それは数億年前の誕生から始まり、5000年前の繁栄～現在に至ります。縄文時代中期に日本海沿岸に栄えた奴名奈川姫を国王とする越の国は、ひすいで勾玉を製作し、それを崇めていたそうです。その価値は、剣・鏡・勾玉の三種の神器の一つとされ、これらを持つことが王の証であったと言われています。勾玉は胎児を表現したものとされ、現在でも安産のお守りとして最高なものとされています。



ひすい(jade)と呼ばれるものには、硬玉(jade)と軟玉(nephrite)があります。鉱物学的には硬玉は輝石、軟玉は角閃石の一種になり、全く違う鉱物であり、その成因も異なります。日本で珍重されているひすいは硬玉の方で、ひすい輝石と呼ばれています。古墳などから発掘される勾玉もほとんどがひすい輝石で出来ているそうです。

ひすい輝石は、海洋地殻がプレートの沈み込みによって地下深部に運ばれる時、比較的低温且つ高圧下で生成され、蛇紋岩等に取り囲まれて地表近くまで上昇してきます。その後、風化作用によって川や海の転石となります。

科学的に純粋なひすい輝石は無色ないし白色です。如上の混入により緑色、珪の混入により青紫色(パングーヒス)になります。宝石として価値があるものは深緑色で、小滝川・青海川の河原には大きな白いひすい輝石が点在しており、中には筋状に緑の部分が見られます。



ひすい輝石はチェーン状の結晶構造をしており、結晶構造が粗であれば、ハンマーで容易に割れますが、密になればなるほど、硬く良質なひすいとなり、硬度は6～7ですが、衝撃に対しては全宝石の中では最も強く、ダイヤモンドよりも割れにくいそうです。(石持)

名称	ひすい	
	jade 硬玉	nephrite 軟玉
鉱物名	ひすい輝石 輝石の一種	緑閃石 角閃石の一種
化学組成	NaAlSi ₃ O ₆	Ca ₂ Mg ₅ (Si ₈ O ₂₂)(OH) ₂
生成条件	低温高圧下	高圧下では出来ない
代表的な色	冴えた緑(Crによる)	地味な緑(Feによる)
その他	本ひすいと呼ばれ高い評価	工芸品に多く用いられる
	微細結晶の集合体で、強靱	

今月の虫眼鏡 ～社名～

現代は、社名という横文字やカタカナが多い中、弊社は「株式会社 中部日本鉱業研究所」。なんて仰々しくて長い社名なんでしょうか。皆さんもそう思いませんか？書類に社名を書く時にはついひみ出してしまうし、領収書などを書いてもらう時にも、「社名が長くてごめんなさい」と思ってしまう。でも、正確に思い出してもらえなくても決して忘れられない名前だと思います。

ところで、社名の名付け親はというと、弊社の初代社長津嶋朔朗。昭和28年に現在の社長 津嶋春秋と共に産声をあげました。当時は、鉱山の調査に携わっていたので、中部日本鉱業研究所となったそうです。その後、やがて半世紀近くも、この社名を守りながら業務内容は地質調査をはじめ、建設コンサルタント・地盤工事・埋蔵文化財調査へと拡大。「名は体を表す」ことがベストなのでしょうが、創業時スピリットを失わず、常に変革の気概を持ち続けることこそが、大切な心得と思っています。これって、人の生き方にも通じるところがあるのかなと思われてなりません。(営業部 篠原)

ISO 9001 認証取得の効果と運用

ISO 推進事務局 津嶋劍星

プロローグ

建設業界では、社会の国際化・情報化・規制緩和の流れを受けて、建設省を中心に、入札・契約制度の改革・建設 CALS/EC の推進・日本版 PFI の検討など、「建設ビッグバン」と呼ばれる流れが広がっています。これらの流れは、大手のゼネコン・地質調査会社・建設コンサルタントにおいて、世界的な品質保証規格である「ISO 9000」を取得したり、「情報ネットワーク」を構築するなどの動きとして広がっています。

弊社では、これらの「建設ビッグバン」を乗り越え、二十一世紀においてもお客様に信頼され、満足して頂ける企業として発展して行くために、昨年、「情報ネットワーク」の構築を完了しました。そして、平成十一年六月には、富山県内の地質調査・埋蔵文化財調査及び地盤工事を専門とする建設コンサルタント企業としては初めて、品質保証規格「ISO 9001」の認証を取得しました。

「ISO」は、世界共通の規格・基準などの設定を行う組織である「The International Organization for Standardization (国際標準化機構)」の略称であり、「ISO」で作られた品質システムに関する規格のシリーズ(=S)が「ISO 9000」です。

「ISO 9001」は、このシリーズの中でも最も適用範囲の広い、設計・開発・製造・据付け及び付帯サービスに関する品質システムの規格であり、「ISO 9002」「ISO 9003」よりも上位に位置する規格で

・全社員に ISO 9001 品質システムが理解されているか？
このように、疑問疑問を抱えたまま、予備審査・本審査となりました。この様子は『The Earth vol.3』ISO 取得奮闘記の中で綴られています(おひびき)です。

ISO 推進事務局とは

ISO 9001 認証取得から維持まで、その作業を一手に引き受けてきたのが「ISO 推進事務局」である。
ISO 推進事務局局長を筆頭に、総勢5名からなる常設の社内組織である。

ISO 推進事務局全員が、内部監査員の資格を持ち、社内横断的な独立した組織として、部署や職位・経験・年齢などのことなるメンバーで構成されています。このメンバー構成こそが当社の内部監査員の特徴であります。さらに、必要に応じて設置される、各部署の部門長で構成される ISO 推進委員会があります。

ISO 9001 認証取得と内部品質監査

平成十一年十月十二日、十六日、ISO 9001 認証取得後初の内部品質監査を実施した。
ISO 9001 品質システム大きな特徴として次の三つが挙げられます。
一 外部審査機関により認証された品質システムであること
二 内部品質監査を実施すること(当社内監査員による品質システム)

だけのものに終わってしまいます。
内部監査のメンバー構成が、まさに戦略的内部監査であったので

マルチメディア品質マニュアル構築

マルチメディア品質マニュアルは、品質マニュアル・規定文書類・帳票類・システムフローチャート等、ISO 9001 に関連する文書を全て統合リンクさせたものである。

世間では、数百万円と高価な価格で販売されている ISO 支援システムを、自社のネットワークシステムに対応した形で自社構築しました。当社ホームページの建設 CALS/EC で紹介されているネットワークシステムを有効活用した ISO 9001 関連文書の発行・改正・配布作業の効率化を実現し、急速かつスムーズに ISO 9001 品質システムが社内に浸透しました。

マネージメントレビューによる効果

最初のマネージメントレビューは、平成十一年四月一日の社長による ISO 9000 取得宣言であった。

時の流れが確実に速くなってきていることが肌で感じられます。同業他社のなかで、一番 ISO 9001 を取得することが、我々の目標であり使命でもありました。建設 CALS/EC に対応するための情報ネットワークの整備、品質を確保するための ISO 9001 認証取得。我々は、確実に次の時代のトップバッターとして走

遺跡発掘の「今」

埋文調査室 編

押し寄せる「考古（歴史）ブーム」は何故？

このところの地元新聞の埋蔵文化財の記事については、「枚挙の暇がない」といった感がある。小矢部市の「縄文桜町遺跡」に始まり、舟橋村「浦田遺跡」、氷見市の「柳田布尾山古墳」、高岡市の太刀飾りが発掘された「須田藤の木遺跡」、そして、つい最近立山町での土師器「角杯」の発見等々である。さらに、全国的にみれば、その数は膨大であり、日本列島のそこかしこで発掘調査が進められているということになる。

私たちが、埋蔵文化財発掘調査業務を開設して、まだ1年半を経過したところであるにも拘わらず、いくつもの調査依頼があることも、それを物語っている証のように思われてならない。そこで、今回から小誌のスペースを借りて、埋蔵文化財についての私たちの取り組む姿勢や思い、また遺跡の紹介などを拙文ながらスタッフそれぞれで書き留めておこうと思う。

さて、先述した遺跡の個々について、時代区分で言えば縄文・弥生・古墳・奈良というところになるが、中世の遺跡は、あまり話題にならないようである。ちょっと浮かぶのは福井県の「朝倉一乗谷」くらいで、幾分影が薄い。その点、日本人の成り立ちや、その黎明期あるいは大和朝廷の成立、万葉に関わるところは多くの考古（歴史）ファンの耳目的のようである。日本の歴史の中で、日本人がどこから来たのか（どのように形成されたのか）、日本の国がどのように成立していくのか等については、まだまだ分からないことが多い、事実、あの卑弥呼の邪馬台国から大和朝廷への過渡期である3世紀～5世紀は空白の“とき”であり、ファンにとってはわくわくして自分の仮説を存分に楽しめるフィールドであることは間違いない。私たちの想像を遙かに超える縄文時代の高度なまた豊かな生活文化や、私たちの知らない豪族達が闊歩したあとの広大な古墳、さらに、歴史書に名を残す女王の国の謎が解き明かされない限り、日本人の生い立ちを追い求めてこの「考古（歴史）ブーム」の退潮はないように思われてならないが、読者はどうお思いでしょう。

私たちの指向は今...

ところで、今まで行政主体で行われた埋蔵文化財発掘調査も、近年では民間調査企業が行うようになりつつある。いわゆる「民活」の進行であるが、行政では住民あるいは多くのファンに対し、より質が高く豊かな情報の発信等や研究資料としての整備ということにスタンスを移行する傾向にある。加えて、効率の良い調査業務を遂行し、社会資本整備にも配慮しながら学術的側面と行政課題とを成就させようということなのではないだろうか。

この調査機関の一端に連なる私たちは、このような状況を踏まえて、信頼に足る調査の遂行と取りまとめ、また作業の安全と効率性の高い仕事を行うことが責務と考えている。このため、私たちは次のような新たな視点を自ら設定し研鑽・努力しなければならないと考えている。

(1)「ISO9001」規定に基づいた、調査・成果品の品質の保証と向

上。


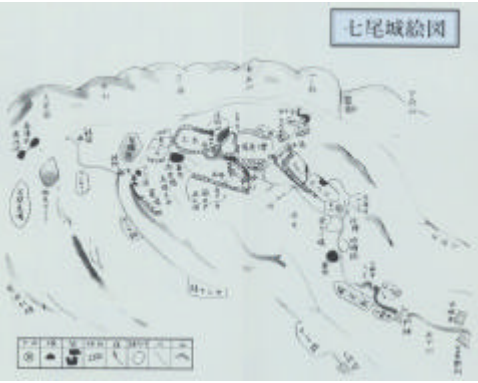
(2)調査経過・調査結果のデジタル保存及び簡易データベースとしての情報発信。

(3)自然科学的な視点に立ち、放射性炭素年代測定等の活用。

(4)地下探査技術を用いた遺跡の非破壊調査の応用。

(1)については、小誌において、幾度となくご説明してきたが、次回から(2)以下を詳しく記述させてもらおうと思う。

遺跡探訪 -第1回-
国史跡指定(昭和9年)七尾城址

初回の遺跡紹介は、中世から近世にかけての典型的な山城の「石川七尾城」である。西暦1391年、能登の守護となった畠山基国の子満慶が能登畠山氏の祖となりその後上杉謙信によって滅ぼされるまでの約170年間の支配が続く(1408～1577)。その間の大永年間(16世紀前半)に守護所がここ七尾城に移され、名実ともに能登の政治・経済の中心として城下町が形成されることとなる。現在、壮大な城の石垣の傍ら森閑とした石段を登り、真っ平な展望台まで至ると七尾湾が一望でき、振り返れば古城の面影が深く、往時の夢が偲ばれる。途中、七尾城史資料館と懐古館がある。資料館の方は畠山氏の子孫の畠山一清翁が昭和38年に中世の城をイメージして建てられたもので、館内には当時の武器・武具や天目茶碗・城主の書翰等室町時代から戦国時代の武士の生活の一端を窺う資料が展示してある。また、懐古館は約180年前に立てられた肝煎り(住屋)の茅葺き家屋であり、能登の民家の伝統を知ることが出来る。(入館料:450円)また、七尾城址の西方には(国道159号線から左方に折れる)能登国分寺跡もあるので、是非、一緒に訪ねてみたい。

最近、たっておきの話

「日本のメガトレンド」

代表取締役 津嶋 春秋

平成 11 年 9 月 23 日、国立京都国際会館で行なわれた「アメリカの経営・日本の経営」と題した鼎談に釘付になりました。講師は、日本を代表するベンチャーキャピタリストでニューヨーク在住のゼロングループ社長増田茂氏、国際経営評論家の産能大学教授小林薫氏ならびに㈱タナベ経営社長田辺次良氏の 3 氏で、インターネットが織成す経営戦略上のメガトレンド（近未来社会を決定付ける潮流）について熱っぽく語り掛けてくれました。

そのメガトレンドとは、「インターネット + G.Y.」というキーワードに集約されます。ジェネレーションヤング、すなわち、団塊の世代の子供達はアメリカの人口 2 億人中 0.7 億人を占め、両親とはまったく異なる消費の動向・嗜好を示し、毎年増加し続けるインターネット人口の 8 割が G.Y. だという事実です。現在のアメリカのインターネット利用人口は 47% に達しているようですが、インターネットの決定的ニーズはその利用人口が 15% を越えたとき爆発的に発生してくるそうです。日本でも 1.2 億人中 0.18 億人が利用し始めた現在からメガトレンドに飲み込まれて行くということが予測される訳です。

アメリカ合衆国と州政府は調達に関する入札を全てグローバル化し、インターネットで実施することに決定したため、全世界からの応札が可能になったそうですが、これは驚くべき変化です。インターネットの直面している技術的問題点は 3 ~ 6 ヶ月内に革新され、テレビ並みの映像品質と大幅なスピードアップが実現されるだろうと予測されており、この流れはアメリカに遅れること半年 ~ 1 年で日本にももたらされるであろうと考えられます。しかし、アメリカでは淘汰も激しく、販売プロジェクトのベンチャー企業のうち 8 割は倒産し、現在の勝組の筆頭である書籍販売の Amazon.com やオークションの Ebay など 2 割しか残らないだろうと予測されています。そして、これらのベンチャー企業はマンハッタンからではなく全て田舎から誕生しているようで、日本でも東京ではない地域の力が必要とされてくるのは必定です。これらインターネットに代表される社会的変化こそ、他社の専門的強みを自社のために如何に利用するかを考え、社内外の強みの組合せを戦略的に行なうベンチャー企業の孵化環境であり、あるいは「建設 CALS / EC」の目指す世界にも相通じてくるのだらうと思います。インターネットとベンチャー企業について語る増田氏の最後の言葉が印象的でした。「どうやってもうけるか、その次元を変えることのできる企業が大事です。意図的に今はもうけなくていいんだと考えた途端にグローバルベースでお客様が伸び、そして途端にもうかるというのがインターネットビジネスの世界です。」 おわり

CNK NEWS

【地すべり学会：第 38 回 研究発表会 in 札幌】

平成 11 年度、社団法人日本地すべり学会主催による、第 38 回研究発表会および現地見学会が、札幌市で開催されました。

弊社は、地すべり対策技術の向上および、地すべり解析の研究結果の発表を目的として、この学会に参加致しました。

研究発表

『三次元地すべり安定解析およびその影響要素の評価』

地盤調査部 郎 焔華, 佐伯 孝

弊社が開発した、三次元安定解析プログラム Fs3D を用いて、斜面の形状・土質定数・地下水位を変化させ、三次元安全率および抑止力への影響についての研究発表。

ポスターセッション

『富山県下におけるグリーンタフ地すべりの特性(予報)』

地盤調査部 桑野 正文, 佐伯 孝, 野崎 保

新第三紀の堆積岩分布地域に発生している地すべりと、新第三紀中新世前期の火山岩類(グリーンタフ層)を基盤としている地域との、地すべり発生形態・地すべり災害とその特徴についての比較。

す。ただし、「ISO9001」は、製品の品質を規定するものではなく、あくまでも設計から付帯サービスまでのすべての段階で不適合を防止する品質システム、すなわち品質保証体制を規定するものである点に注意する必要があります(弊社ホームページより引用)。

ISO取得宣言(本審査) ISO9001 認証取得

平成十一年六月二十八日(株)中部日本鉱業研究所に ISO 9001 認証取得の第一報が飛び込んだ。富山県内の地質調査・埋蔵文化財調査及び地盤工事を専門とする建設コンサルタント企業としては初めての品質保証規格「ISO9001」認証の取得であった。

これは、平成十一年四月一日の社長による ISO 9000 S 取得宣言のもとに始まりました。しかしながら、

- ・新システムの導入に対する不安や新しいルールへの反発
- ・一般製造業でやられている品質管理システムを、単純に建設コンサルタント企業用に解釈するだけでよいのだろうか?
- ・一生懸命やればやるほど経費がかさむ
- ・たしかに、入札要件となれば認証取得は必要だが、いずれは同業他社も皆取得することは明らかであり、企業の差別化にはつながらないのではないか?
- ・どれだけ、ISO 9000 S の外部研修や講習会に参加しても、真の価値が見えてこない
- ・ISO9001 の認証取得準備を行った ISO 推進事務局内で

ム(チェック)三マネージメントレビューを実施すること(経営者による品質システムの見直し)当初、ISO9001 認証取得のメリットをどのように顧客に説明するかについて、ISO 推進事務局内でも意見が分かれました。しかし、ISO9001 品質システムに沿って業務を行うことよってその答えは自然に導かれ、認められるものでした。平成十一年五月二十八日、二十九日の本審査では、審査員は建設コンサルタント企業出身の人達ではないという先入観から、はたまた、人間的なつながりも求められない二日間という短い付き合いだから、審査員方の言つことを素直に受けとれるには抵抗がありませんでした。余りにも無駄がなく、抜けているところがない完璧な外部審査だからです。外部審査は、純粹な品質システムチェックに留まってしまうのです。それに対して、内部品質監査は、ISO 推進事務局と ISO 推進委員会の歯車がかみ合い、この組織が有効に機能し、一般企業ではなかなかできないと言われている、内部からの改善を行うことが可能になりました。



津嶋劉星プロフィール

富山県高岡市出身(三十一歳)

平成五年三月 中央大学理工学部土木学科卒業

平成五年四月 ㈱応用地学研究所入社

平成十年四月 ㈱中部日本鉱業研究所入社現在に至る

地盤調査部主任技師・ISO 推進事務局員

り始めています。この ISO9001 認証取得は(株)中部日本鉱業研究所の通過点であり、新たな出発点でもありません。ISO9001 認証を取得することの真の価値は、認証取得して初めて見いだせるものでした。

エピソード

ISO9001 品質システムは、エンドレスです。

弊社は、お客様の安心と選択が優先する顧客本位の企業として、技術・品質・コスト・スピードにおいて厚層サービスを提供し続けることのできる企業を目指します。